

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】令和1年12月5日(2019.12.5)

【公開番号】特開2018-89078(P2018-89078A)

【公開日】平成30年6月14日(2018.6.14)

【年通号数】公開・登録公報2018-022

【出願番号】特願2016-234521(P2016-234521)

【国際特許分類】

A 6 1 B 3/028 (2006.01)

A 6 1 B 3/103 (2006.01)

A 6 1 B 3/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 3/02 E

A 6 1 B 3/10 N

A 6 1 B 3/00 B

【手続補正書】

【提出日】令和1年10月28日(2019.10.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

視標光束を出射する視標呈示部を有し、前記視標呈示部から出射された視標光束を被検眼に向けて投影する投影光学系と、

前記投影光学系を収納する筐体と、

前記投影光学系からの前記視標光束を透過し、前記筐体の内部から前記筐体の外部へ前記視標光束を射出することで、前記被検眼に向けて前記視標光束を投影するための呈示窓と、

を備える自覚式検眼装置であつて、

前記筐体の内部から前記筐体の外部へ射出された前記視標光束の光学特性を変更する眼屈折力測定ユニットと前記被検眼との位置関係を、前記呈示窓を介して観察するための観察ユニットと、

を備えることを特徴とする自覚式検眼装置。

【請求項2】

請求項1の自覚式検眼装置において、

前記観察ユニットは、視標光束が通過する光路の光路外に配置されることを特徴とする自覚式検眼装置。

【請求項3】

請求項1の自覚式検眼装置において、

前記観察ユニットは、前記筐体の外部から前記呈示窓を介して、前記眼屈折力測定ユニットと前記被検眼との位置関係を観察するための観察窓を備えることを特徴とする自覚式検眼装置。

【請求項4】

請求項3の自覚式検眼装置において、

前記観察ユニットは、さらに、前記観察窓に対して開閉可能なカバーと、

前記カバーの開閉を検出する検出手段と、

を備え、

前記検出手段の検出結果に基づいて、被検者の自覚的な検査を行うための第1モードと、被検者の瞳孔位置を確認するための第2モードと、を切り換える制御手段を備えることを特徴とする自覚式検眼装置。

**【請求項5】**

請求項1～4のいずれかの自覚式検眼装置において、

さらに、前記眼屈折力測定ユニットを備え、

前記視標光束が前記眼屈折力測定ユニットを介して被検眼に投影されることを特徴とすることを特徴とする自覚式検眼装置。

**【請求項6】**

請求項5の自覚式検眼装置において、

前記筐体と前記眼屈折力測定ユニットは近接して配置されていることを特徴とする自覚式検眼装置。